

令和4年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

( 中間 **最終** )

昭和中学校区 校番17 学校名 昭和中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学力の向上を図る	<p>【貫】継続的な授業改善に取り組み、「考える授業づくり」を推進する。</p> <p>基礎・基本の定着や個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>生徒の実態に応じた学習習慣の定着を図る。</p>	<p>○中間調査では100%だったのに対し、96%と4%下回っている。特に1・2年生の数値が低い。コロナ禍ではあるが、少しずつ自分の意見を発表する場面が増えてはきているが、機会が少ないと考えられる。</p> <p>○1ヶ月に1冊以上の本を読んでいる割合は46%であり、目標値の60%を大きく下回っている。委員会活動でクラスごとの貸出冊数を記録したりPOPを作ったりするなどして、図書室の活性化を目指したが、図書室開室日が十分に周知されておらず貸出も少ない状況である。</p> <p>○タブレット端末を学習に活用している割合は91%であり、目標値を9%下回っている。授業での活用は増えてきたが、校内でのその他の活動や家庭学習での活用が進んでいない。</p> <p>○家庭学習が目標時間を達成している生徒の割合が52%と中間調査より14%下回っている。教科での課題設定と授業と家庭学習をつなぐ学習方法の指導が不十分である。</p>	<p>○「学びのレシピ」を意識した授業を進めていく。また、タブレットを活用して意見を発表させる場面を多く作る。</p> <p>○中学校区全体で「授業規律 やりきる四則」や「昭和学习のスタイル」を通した「考える授業づくり」に取り組み、児童生徒の実態を踏まえた「繋がり」のある授業改善を進める。</p> <p>○委員会を活用しながら、まずは身近に本の借りられる図書室について知ってもらい、活性化に努めていく。</p> <p>○学校図書館の整備に加え、授業等における学校図書館の活用を図りながら、読書に対する興味・関心や意欲の向上を図る。</p> <p>○校内では特別活動や生徒会活動を中心に活用場を増やしたり、家庭学習での活用例を示したりしながら、活用する機会を増やしていく。</p> <p>○家庭学習の内容について、各教科で予習・復習の仕方や自主学習の方法を具体的に示して指導する。</p> <p>○AI型デジタルドリル「Qubena」の活用を通して、個に応じた指導・支援の充実や家庭における学習習慣の定着を図る。</p>
**	中学生としての自覚と責任を持たせる。	「授業規則やりきる四則」を徹底し、中学生としての規範意識の向上を図る。	<p>○教員からの指導や生徒同士の声かけにより2学年、3学年の達成度は90%を越えている。一方で1学年は学校生活に慣れたこともあり、基本的な生活習慣の徹底ができておらず達成度が前回と比べて2%下がっている。また、全学年で生徒の自己評価よりも保護者の肯定的評価が高くなっている。</p> <p>○服装、身だしなみについて、生徒自身の自己評価は目標値には及ぶことがなかったものの、90%近くの肯定的な数値が表れていた。一方、保護者からの視点は十分でないとの結果が表れている。自分たちはできていると思っていることも、大人から見れば不十分であるとの認識の差が見て取れる。</p> <p>○生徒アンケート「机の中やロッカーを整えています」の肯定的評価の割合は学年が上がるにつれて上がっているが、1年生の達成度が学校全体の達成度よりも11%下回っている。学習意欲が低いことと表れと思われる。</p>	<p>○引き続き学校組織全体で、基本的な生活習慣を身に付けられるよう指導を行う。時間に遅れてしまう生徒には個別の指導も徹底して行うことや、委員会活動を活用し生徒同士が声かけできる環境をつくることで、時間を守る意識を高めていきたい。また学校だけではなく、保護者と連携を取りながら効果的な指導を行う。</p> <p>○服装、身だしなみが整わない一部生徒に対して、家庭と連携した指導や協力依頼などの取組を行うとともに、日々の授業や学年集会等の機会を通して、集団指導を充実させて生徒の意識や態度の改善を図る。</p> <p>○ボランティア活動の推進とともに、委員会活動や班活動で核になる生徒を巻き込み、生徒自ら整理・整頓に努めさせるとともに、学級担任以外の教員も学活に参加する等して、学校全体で落ち着いた学習環境づくりを推進する。</p>
*	豊かな感性や社会性を育む。	<p>【貫】生徒同士の共感的な人間関係づくりを推進し、自尊感情を育成する。</p> <p>学校や地域、社会に貢献しようとする意欲と態度を育成する。</p>	<p>○3つの項目の内、生徒アンケート「自分にはよいところがあります」と答える生徒は81%と他に比べて低い状況がある。「自分にはよいところがある」という質問に対して肯定的に答える生徒が少ないのは自分に自信がなかったり、周囲と自分を比べ自分の欠点にばかり目を向けていたりすることが考えられる。</p> <p>○生徒アンケート「自分の将来に夢や目標を持っています」の肯定的評価の割合は、75%と前回と変わらず低い状況がある。1年生が67%、2年生が74%、3年生が83%と学年が上がるにつれて、肯定的評価の割合が上がっていた。そのため、1、2年生は進路についての知識が少なかったり、自分の将来をイメージすることができていないことが考えられる。</p>	<p>○学級の中で互いのよさを探す活動や教員が積極的に生徒の長所を発見し声かけをしていく。また、学級や行事などで生徒の活躍の場を増やし、それに対して生徒の成長を今以上に認めていく。</p> <p>○学級や学校行事、生徒会活動等において、自分達でルールを決めたり、運営したりするような生徒主体となる活動を推進していく。</p> <p>○学校や中学校区の中で、多様な異学年交流等の活動を展開することにより、生徒の自尊感情や社会性の育成を図り、地域や社会に貢献しようとする態度や実践力を育てる。</p> <p>○「キャリア・ログ」の活用を通して、中学校3年間や義務教育9年間を見据えたキャリア学習に取り組む中で、自分の良さや強み、将来の進路や生き方を具体的に考えさせ、夢や目標の実現に向けて努力する姿勢や態度を育成する。</p>
業務改善	働きやすく働きがいのある職場づくりを推進する。	生徒と向き合う時間を確保する 長時間勤務の削減に取り組む	<p>○朝の健康観察や手指の消毒、教室での生徒の出迎え等、授業や行事等に取り組む中で生徒と向き合う時間を意識して作っている。</p> <p>○日常的な業務の遂行に加え、積極的に生徒指導や家庭連携を行っている。</p>	<p>○業務の効率化のための誰が、何を、いつまでに、どうする等のスケジュール管理を行い、業務をチームで進めていくことにより、生徒と向き合う時間の確保ができる職場づくりを推進する。</p> <p>○職員で意見を出し合いながら、業務のスリム化やデジタル機器の有効的な活用、時間と仕事を意識し計画的に業務を進めていくことができるよう検討や協議を行っていく。</p>